

冬の渡り鳥観察MAP ~野鳥がよく観察できる場所~



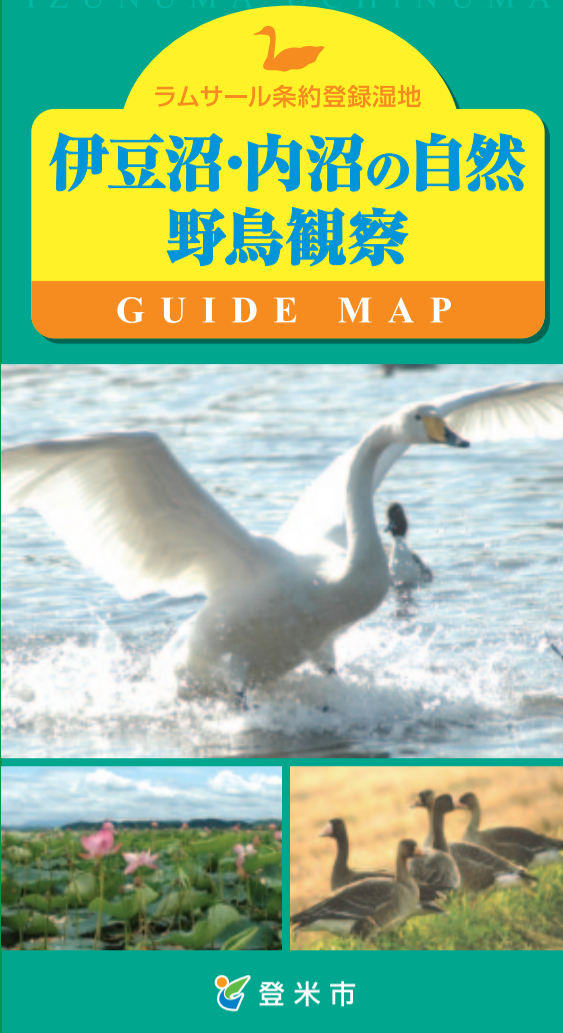
登米市環境キャラクター トメル君・オトメちゃん

観察時刻(日の出30分前~)

- 11月初め…… 5:30頃
- 12月初め…… 6:00頃
- 1月初め…… 6:30頃

※曇りや雨の日には、飛び立ちが遅くなる場合があります。

伊豆沼・内沼の野鳥の生態ガイド



登米市

野鳥観察をするときのマナー

- 体調には十分気をつけて、必ず大人の人と一緒に観察しましょう。
- 野鳥を驚かさず、静かに観察しましょう。
- 望遠鏡、双眼鏡で絶対に太陽を見ないようにしましょう。
- 鳥の色を見分けることができます。鳥を驚かさない服装を心がけましょう。
- 騒いだり、近づきすぎたりすると鳥は逃げてしまいます。他のバードウォッチングをしている人の迷惑にならないようにルールとマナーを守りましょう。
- 季節にあった適切な服装をしましょう。じっとしたまま観察すると体が冷えるので、普段より暖かい服装を準備しましょう。特に寒い時期は服装に注意しましょう。

美しい自然環境をいつまでも!

お問い合わせ

登米市伊豆沼・内沼サングチュアリセンター
宮城県登米市迫町新田字新沼254
TEL&FAX.0220-28-3111

登米市役所市民生活部環境課
TEL.0220-58-5553
FAX.0220-58-3345

監修: 財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
写真提供: 秋葉 徹氏、篠原 善彦氏、三島 直温氏、及川 俊弘氏

自然ガイド

野鳥観察者の憧れ「オジロワシ」

11月、ロシアから2~3羽ほどやってきて越冬します。沼が凍結すると、氷の上でカモ類などを狙う姿をみることが出来ます。



伊豆沼・内沼の水環境

沼の水環境を形づくる重要な要素である水生植物は、渡り鳥や在来魚の生息場所、隠れ場所や餌となり、生きものにとって多様性のある環境を保っています。特にハスは、ハス祭りなど地域の観光資源としても非常に大きな役割を担っています。しかし、近年、ハスは貴重な観光資源である反面、沼の1/3を占めるほどになり、枯れたハスは沼を浅くし、水質悪化の一因になっています。

水鳥の好きな食べ物

伊豆沼内沼の水生植物やエビなどは、鳥の食べ物になります。カイツブリやサギの仲間、キンクロハジロなどは沼に生息する小動物を食べています。ホシハジロなどは潜って水草等を食べています。



地下茎を食べるオオハクチョウ

雁の生態 1問1答

第1問 雁行の先頭は群れのリーダーですか?

答え 違います。雁がかぎ型を作る理由は、斜め後方だと前の鳥のはばたきで出来た気流を利用して、エネルギーを節約して飛ぶことができるためです。先頭はリーダーではなく、運悪くそこにきた個体で、常に後ろに回り込もうとします。後ろへ回り込みたいという意思の強さや、そのときの気象条件によって順番が変わります。

第2問 様々な鳥が逆さになって水にもぐり、餌をとっていますが、餌と泥をどのように分けているのでしょうか。

答え 泥と餌をいっしょに食べ、くちばしの端から水を出して、餌だけをこして食べています。

第3問 群れで飛んでいる構成(単位)は何ですか。(家族、親戚、知人の集団?)

答え 基本的に家族です。それに昨年生まれ、一昨年生まれの若鳥がいっしょになることがあります。

第4問 かぎ型、くさび型、くの字型などの形は、何で決まるのでしょうか。

答え 風速など気象条件の影響が大きいです。

第5問 飛ぶ速度は、時速にして何kmくらいですか。

答え およそ時速60kmです。ただし渡りの時は時速100kmほどになります。

第6問 暗くても物が見えるのでしょうか。

答え 見えます。いわゆる鳥目といわれるのは、鶏などの家禽に多く、野生の鳥に鳥目はありません。



田んぼに降り立つマガン 朝の飛び立ち



- ### 〈交通のご案内〉
- JR東北本線新田駅 ……徒歩約10分
 - 東北新幹線くりこま高原駅 ……車で約25分
 - 東北自動車道築館I.C ……車で約20分
 - 東北自動車道古川I.C ……車で約50分
 - 東北自動車道若柳金成I.C ……車で約25分

一年を通して 伊豆沼・内沼で見られる鳥たち

春にホーホケキョとさえずることと有名です。非繁殖期はチャツチャツと鳴きます。



ウグイス

長い尾が特徴です。「ジュリリ、ジュリリ」と鳴きながら、沼周辺の林で飛び回る姿を観察できます。



エナガ

真黒い体に白い額と嘴が特徴です。潜水して植物や小動物を採ったり、陸に上がって草を食べます。



オオバン

周年観察することができ、伊豆沼内沼でも繁殖しています。夏にみられるカモはこのカモです。



カルガモ

金属的なチーという声で鳴きます。ダイビングして魚を捕らえます。



カワセミ

キツツキの仲間です。赤いお腹と背中の逆ハの字が特徴。キョッ、キョツと鳴きます。



アカゲラ

一年中見られます。春、木のてっぺんなど目立つ場所です。冬はヨシ原で小さい群れをつくりまわります。



ホオジロ

沼周辺の電線や木の目立つ場所に止まり、長い尾をくるくるまわします。昆虫や両生は虫類などを食べます。



モズ

夏に 伊豆沼・内沼で見られる鳥たち

東南アジアなどから渡ってきます。ヨシ原で子育てを行います。「ギョギョシ、ギョギョシ、ケンケン」と鳴きます。



オオヨシキリ

東南アジアから夏鳥として渡ってきます。空中で虫などを捕らえます。渡りの前にはたくさんツバメが集まり、ヨシ原をねぐらにします。



ツバメ

東南アジアから渡ってきます。夜行性で夕方クワツ、クワツと鳴きながら飛びます。水田でカエルやザリガニなどを食べます。



ゴイサギ

東南アジアから渡ってきて、ヨシ原で繁殖します。茶色味がかった羽色で見つけにくい鳥です。



ヨシゴイ

冬に 伊豆沼・内沼で見られる鳥たち

シベリアから冬鳥として渡ってきます。暗いやぶや林を好み、ツツ、ツツと鳴きます。緑灰色の背と黄色みのあるお腹が特徴です。



アオジ

極東ロシアから渡ってきます。伊豆沼・内沼に多数飛来します。雄の尾羽は細長く、名前の由来になっています。



オナガガモ

短くて太い嘴。雄の頭上は黒色で、紅色の頬と喉が特徴です。



ウソ

黒っぽいガンドで、額が平ら、頬の白色が特徴です。近年、観察記録が増えています。



シジュウカラガン

極東ロシアから渡ってきます。潜ってエビや貝などの小動物を食べます。「金黒羽白」の名前は金色の目黒い体、羽の白に由来します。



キンクロハジロ

極東ロシアから渡ってきます。伊豆沼・内沼周辺の田んぼで落ちモミや落ち大豆などを食べます。



コハクチョウ

シベリアから渡ってきます。「ヒッヒッ」という声で鳴き、主に昆虫や実を食べます。



ジョウビタキ

シベリアから渡ってきます。田んぼや草地に降りて虫や植物の種を食べます。渡りの際には、小さな群れをつくりまわります。



ツグミ

極東ロシアから渡ってきます。伊豆沼・内沼では亜種ヒシクイが見られます。



ヒシクイ

シベリアから渡ってきます。雄はきれいな赤色。主にヨシ原や低木で見られ、「ヒッ、ポ」とかわいい声で鳴きます。



ベニマシコ

極東ロシアから渡ってきます。水生植物の越冬芽などを採食します。



ホシハジロ

極東ロシアから渡ってきます。沼をめぐらし、周辺の田んぼで落穂や大豆、草などを食べます。非常に警戒心が強い鳥です。



マガン